

令和2年度 環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会 発表資料

活動団体名：徳之島地区自然保護協議会

活動地域：鹿児島県 徳之島

【2021年 世界自然遺産候補地】

活動におけるテーマ

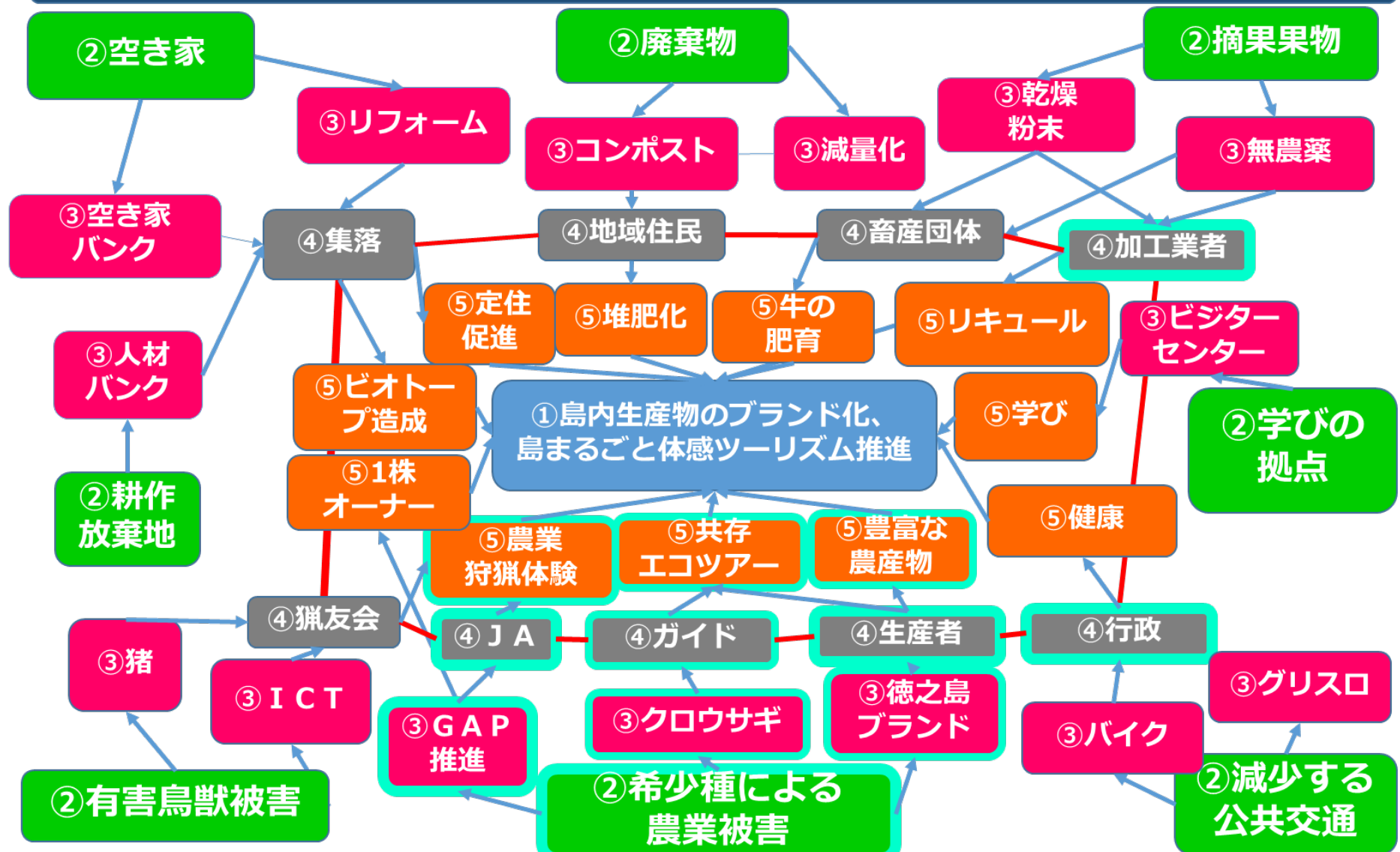
自然と文化に向き合い、

人生を豊かにする上質な時間に出会える島



地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

徳之島地区自然保護協議会 マンダラ

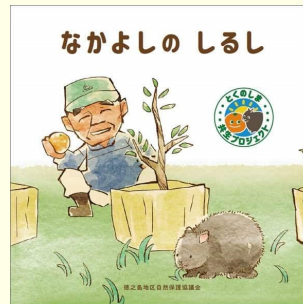


地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと

○アミノクロウサギによる農作物食害被害について、初年度において被害低減の効果検証を行った。2年度においては、アミノクロウサギと“なかよし”になろうと題し、島内の住民を対象にナイトツアーでのクロウサギ生態観察、農園での食害被害低減防止柵の設置を行った。
ツアーは大人3,000円、子ども1,500円で実施。
農家・参加者ともに、満足度も非常に高く、体験型ツアーのコンテンツとして十分な手応え



○アミノクロウサギが訪れる農園で育った農園で採れるタンカンの高付加価値化を目的に、パッケージデザインの刷新を行った。初年度に作成したストーリーブック・新パッケージを活用することで、クロウサギとの共生の中で生まれた農産物として可視化された。
ふるさと納税の返礼品、地元医療従事者・3月に島を離れる高校生にタンカンとセットで配布した。
同パッケージを使った販売では、これまでの販売価格の1.3～1.7倍の値段で取引された。



地域のありたい未来の実現のための「事業のタネ」

1	事業名	世界自然遺産“徳之島”島まるごと体感ツーリズム事業		
	概要	世界自然遺産候補地の徳之島には、世界中でもこの地域だけに暮らす生き物達が数多く生息しており、日々の生活の中で自然に生かされていることを体感することができる。 世界自然遺産“徳之島”島まるごと体感ツーリズム事業では、地域に色濃く残る自然や文化などのツールを活かし、富裕層・長期滞在者を対象とした体験型ツアーの造成・提供を行う。 テーマに「自然と文化に向き合い、人生を豊かにする上質な時間を過ごす旅の提供」を掲げ、長寿・子宝の島にふさわしい体験コンテンツを作り上げる。 リピーター、ファンを生み出すとともに、自然保護活動へのふるさと納税件数の増加を図る。		
	課題・ボトルネック	・地域に残る縦割り ・地域素材のブランディング ・地域素材を活かした地域経営戦略の全体計画策定に関する助言	力を借りたい人物・企業像	○一般社団法人アドベンチャーツーリズム協議会 ○株式会社 J T B 総合研究所 國谷 裕紀 ○岩浅有記（大正大学地域構想研究所准教授 令和3年4月1日就任予定） 他

1	事業名	世界自然遺産“徳之島”ブランド創造事業		
	概要	世界的にも類稀な自然環境を有する徳之島においては、希少種の保全に向けた様々な取組みが展開されている。 しかしながら、徳之島の主要産業である畜産・農業の生産過程においては、希少種生息地域における有害鳥獣捕獲罠の設置や過剰な農薬散布等による生態系への影響が懸念されている。 環境に配慮した認証制度の取組みが広く普及することで、希少種保全につながるとともに、生産物の高付加価値化が期待され、世界自然遺産の島にふさわしい生産体制が確立される。		
	課題・ボトルネック	・第三者認証制度の普及啓発 ・他地域で行われている環境に配慮した手法等で生産される畜産、農産物の価格、市場ニーズの把握	力を借りたい人物・企業像	・第三者認証制度 取り組み団体 ・J G A P 一般社団法人 日本 G A P 協会 ・農家ハンター

今年度の環境整備の取組による地域の変化や気づき

話を聞きに行く！

- 気づいたこと
 - それぞれが様々な課題を抱えており、マンパワーが不足している。一方、同じような思いを抱えている方も多い。
 - 地域の方々が地域全体を通じた産業の活性化にあまり興味がなかった。
 - 他地域の事例やビジョンを説明すると、目を増すごとに協力的になった。

地域のコンセプトを描く！

- 気づいたこと
 - 取組んでいる事柄は全体の一部にしか過ぎないが、多方面に影響を与えていること。
 - 絵に書いた餅とならないよう、実現可能な事柄を描く。
 - ただし、活動の限界を決め付けてはいけない。

事業のストーリーを語る！

- 未利用素材を活かした新商品開発では、果物の搾りかすを使った牛の肥育が行われていることを知り、ブランド化の新しい道筋が見えた。
- 現在、GAP制度によるメリットがないため、新規取得者数が伸び悩んでいる。
GAP制度をブランド化の条件に位置づけることで、安心・安全な農法の普及が期待される。

地域の目標を立てる！

- 他部局において、既に様々な調査が継続して行われており、使用可能な情報・データが見つかるので、ステークホルダーとの連携を図る。
- 長期的なビジョンを描くことで、行うべきこと・注力することが明確化された。

2ヶ年の取組におけるボトルネックや新たに見えてきた課題

- 当初は国の特別天然杵物アミノクロウサギによる農業被害に対して、その問題解決、クロウサギとの共生を目指した農法の確立に取り組んできた。
 - 農家さんに対して、食害被害の低減に取り組むと同時に、農園に訪れるアミノクロウサギに様子などを映像を用いて紹介。
 - 対立していた関係から、「お互いが仲良く暮らせるために」との想いで農家さんから様々な意見が出てきた。
 - 農家さんがクロウサギが訪れる農園を持つことを誇りに思うようになってきた。
 - クロウサギと農作物が共に育つ農園（島）を紹介することで、今後はほかの作物等の高付加価値化が期待される。
 - 第三者認証制度による農薬の低減等が進むと、クロウサギにとってさらに住み良い環境が生まれる。
- 今回、タンカンに絞って高付加価値化を推進してきたが、その他農作物について取り組みを普及させる必要がある。
- 食害被害防止に向けたアミノクロウサギと“なかよし”になろうツアーは、世界自然遺産 徳之島にふさわしい体験コンテンツ。
- 今後は、富裕層・長期滞在者をターゲットにコンテンツ磨き上げ、積極的に売り出しが必要。

今後の展望

○2021年夏、世界自然遺産への登録が期待されている。

登録を契機とした観光課役の増加が見込まれ、受け入れ体制が万全な状態ではない。

（特に、自然にふれるツアー等）

地域にある資源の見直し、使えるコンテンツの磨き上げ、多様な主体が連携し、観光需要・地域経済の活性化を早急に図る必要がある。【地域経済の縦割りの打破】

自然、文化、食、農業、畜産、アドベンチャーなど様々なコンテンツを活かし、ターゲットを絞った観光施策を島全体で策定。

国内旅行者、将来的にはインバウンド需要を見込み、観光客に対して上質な時間を提供。

○上記に関連して、安心・安全にとことんこだわった食の提供

葉物、根菜、畜産、日頃私たちが口にする食材が豊富に生産されている。

今後、第三者認証制度の普及、アミノクロウサギと共に育った食材として販売を進めることで売価単価を押し上げる。

売上げの一部が自然保護活動に寄附される仕組みが構築されており、商品が売れることで、地域の自然環境がさらにより良いものになっている。